

---

# 白黒

夜鳥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白黒

### 【Nコード】

N8642C

### 【作者名】

夜鳥

### 【あらすじ】

神が世界を創る前から天地は白と黒に分かれ、地球に有った。  
2  
話完結。

空が有った。

海が有った。

草が有った。

生まれて間もない小さな生命が生きていた。

世界は『現在』を刻んでいた。

不穏の無い、平和な時が流れていた。

黒い闇が大地を飲み込み渦巻いていた。

真っ白な光が空から其れを照らしていた。

大地の漆黒、天上の純白。

それだけでも世界は美しかった。

けれど神は更に美しいものを求めた。

そして生まれたのが、人間、

それらは、神の欲求を満たすための玩具。

黒と白。

相反する二つの色。

人の手によって作り出せる色のうちの、其の二色は、人が生まれる其のずっと前から。

いつの間にか此の世界に有った。

人は其の呼び名を知らない。

人間には未だ、色を与えられていなかった。

無知で無垢、かつ純真で純潔。其れが故純粹なまでに残酷。

傑作の存在、種類名は‘人’。

生まれたばかりの‘人間’に、創造主は名を授けた。

『アダム』と『イヴ』

そして二色に色付けた其の世界に、新たなる『色』を加えていった。

思いついた創造物を其の世界に住まわす度、色は増えてゆく。

天地が白と黒だけでなくなった。

創造主の思いつきで、白と黒は居場所を無くし始めていた。

白の領域の天空は青に赤に。

黒の領域の大地は黄に緑に。

『色とりどり』の世界。

奢れる創造主の侵蝕は、二色の領域を容易に越えた。

色彩が豊かになり、色が溢れ満ちてくる。

そんな時。

白と黒は、残る力を振り絞り動いた。

世界が消えてしまう前に。

自らを守る為に。

天地半ばの空間で、闇と光がぶつかる。

一瞬の接触。

そして一時の融合。

絡まり合うようにして解けた其れは、うねり、混ざり、濁り色に姿を変えながら紅く発光し、勢い良く弾け飛んだ。

爆発ではなかった。

それは優しい光の包容だった。

闇を含んだ白き光が、何万もの細い糸になり、世界全体を覆い尽くす。

そしてそれらは数瞬の内に消え去り、また色彩豊かな創られた世界へ変わる。

青に変わった空。

白はもう浮かぶ雲でしかない。

光の弾けた空から、灰色の塊が落ちてくる。

白と黒の生み出した子。

創造主への最期の反抗。

其れが眼を開いた時から。

愚かな神の創りし美園は、荒野へと変わり始めた。



## 2 (前書き)

最終話。



天地が我を創り賜うたならば、此の身滅びさするも世界。  
息吹音色満ち足りた此処には、我は蛇足でしかあらぬ存在。

何故此の身創り賜うた？

此の身触れれば病魔に喰われ。  
此の身駆ければ大地を腐らす。  
此の声聴けば正気を奪ひ。  
此の身見止めれば其れを殺す。

此の身…

生きるに何の楽しさが有ると言ふ。  
生きるに何の希望が有ると言ふ。

生きるには苦だけが付きまとうて、弱き我を病ませつる。

さすれど死は我を迎えず。  
生き存え、此の身が故、幾つのものを滅ぼしたろう。  
我が慕うものは其の身滅ぼし。  
我が嫌うものが増えゆく。

天地の愛で子。

世界に創られし我が身。

歪な我が愛し子ならば、この子らは忌み子。

其のような事が有って良いものだろうか。

もし創造主が此の声を聴くのなら、我を海に変えてはくれぬか。

愛するが故に創られた、然れど『愛』は其の身には無い。

忌み子でも我は慈しめる。忌み子など元から無いのだから。

忌み子、言ふなれば其れは我を言ふ。

海は青い。

闇と光を孕んだ其の青は、我を創りし者らの心。

創造主の作り賜うたものの中に一つだけ。

その存在の証に一つだけ。

海の青に、自ら飛び込んで色を付けた。

青く暗く。

生命育まれ弄られる事の無い領域。

消えゆく我が身、意識の中で、愛しい忌み子らの名を呼んだ。

愛し、愛し、此の身朽ちれど彼の子の為ぞ。  
鳴々…愛し彼の子らよ。

海は空に上がり地に落ちてまた海へと巡る。  
私の心、此の身を海へとけ込ませ。

慕う者らを慈しみ、見守れるように……と。  
我が身まぎれて此の変わり果てた大地に身を落とす。

私の色、私の色、愛し子らを守り続けませう。  
愛し子らは我を忘るだろうども。

其れでも。  
愛し子ら、生き抜ける道があるならば。

故に、後の人は其の色を『藍』と呼ぶ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8642c/>

---

白黒

2011年1月16日02時10分発行